

「東京医科歯科大学献体の会」会員ならびにご関係の皆さまへ

臨床解剖学分野では、以下の研究を行っております。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

研究課題名：足関節とその周囲の筋腱に関する解剖学的研究

東京医科歯科大学医学部倫理委員会承認番号：第 M2018-108 番

データ収集期間：医学部倫理審査委員会承認後から 2021 年 6 月 30 日まで

研究目的：

足関節は下腿と足部の間に位置するため足関節の円滑な運動において重要な役割を担います。そのため、足関節捻挫や靭帯損傷、足根洞症候群、遠位脛腓靭帯損傷、変形性足関節症などに代表されるように、日常生活のみならずスポーツ動作などにおいても機能障害が散見され、障害の多くみられる関節の一つでもあります。これら障害が生じた際に、足関節構造の正確な理解は外科手術やリハビリテーションのためにも重要です。しかしながら、足関節を支える多くの筋、靭帯、関節包がどのような位置関係をもっているか、どのように重なり合って層構造なしているか、どれぐらいの幅をもって骨に付いているかなどの詳細な解剖学的研究はあまりなされていません。私たちは、足関節とその周囲の筋を詳細に調べることで、足関節に生じる障害の理解に役立つ解剖学的基盤を作りたいと考えています。

研究の対象：

本研究で用いる解剖体は、すべて生前に「東京医科歯科大学献体の会」に入会された方のご遺体です。その尊いご遺志に深く感謝するとともに、医学、歯学の教育ならびに研究に用いるという献体法（医学及び歯学の教育のために献体に関する法律）ならびに死体解剖保存法の精神を遵守して行って参ります。また、研究の実施に当たっては、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守すると共に、日本解剖学会が定めた「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」に従って行います。

研究の内容：

本学臨床解剖学講座にて保存されている解剖体を用いて、足関節の靭帯・関節包とその周囲の筋、足関節を構成する脛骨・腓骨・距骨・踵骨の骨形態ならびにその栄養血管や支配神経を観察します。また組織標本を作製し、筋や靭帯・関節包がどのように骨に付着しているかの観察を行います。染色方法としてはHE染色に加えEVG染色、Masson染色、Toluidine Blue染色などを行います。また、骨形態の観察のため、マイクロCT (SMX-100CT、島津製作所)を使用し、脛骨・腓骨・距骨・踵骨が立体的にどのような構造をしているかを明らかにします。この研究によって、足関節を支える筋・靭帯・関節包の構造が立体的かつ詳細にわかり、障害の原因となる構造の理解が推測できると考えています。

この研究により一定の成果がえられた場合には、その結果を国内外の学会や論文で発表しますが、写真閲覧時に匿名化を行い、解剖体の個人を特定できる情報は使用いたしません。登録解剖体の同定や照会は、登録時に発行される登録番号を用いて行います。登録にあたっては、識別番号を設定し、対応表を作成します。参照した画像等は、匿名化の後、臨床解剖学医局にて10年間厳重に保管し、研究終了後に適切に扱わせていただきます。

本研究は大学の運営費を用いて行われます。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、医学部臨床研究利益相反委員会に申告を行い、承認されています。またデータを二次的に利用する場合は新たな研究計画を立案し医学部倫理審査委員会で承認された後、改めてHP上でお知らせいたします。

なお、本研究に関してお問い合わせのある場合、下記宛先までご連絡ください。また、研究の途中であっても、解剖体の使用あるいは得られたデータの使用をお断りになる場合には直ちに本研究の対象から除外します。その場合にも故人および関係者の皆様の不利益となることは一切ありませんので、ご遠慮なくお申し出ください。

研究責任者：東京医科歯科大学大学院 運動器機能形態学講座 二村 昭元

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

電話：03-5803-5390 (対応可能時間帯 平日 9:00～17:00)

苦情・相談窓口：

東京医科歯科大学医学部総務掛

電話：03-5803-5096 (対応可能時間帯 平日 9:00～17:00)